

とぎつちよう　うちどく　すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん　む　ねん　あきごう
中学年向け　２０２４年　秋号



「ぞうのたまごのたまごやき」
寺村 輝夫/作　和歌山 静子/絵
（理論社）

王さまがーばんすきなものは、たまご。
「たまごやきがーばんうまいよ。あまくって
ふーわりした、あったかいのがいいね。」で
すって。

王さまのうちに、赤ちゃんがうまれまし
た。すっかりよろこんだ王さまが、おいわい
のごちそうにえらんだのは、もちろん「たま
ごやき」。国じゅうの人にごちそうするため
に考えついたのは、ぞうのたまごを見つけて
くること！

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本
について話す。これが「うちどく（家読）」
です。むずかしいルールはいりません。
家族みんなでルールを決めてはじめてみま
しょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさん
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい
時間を過ごしましょう。



「ともに生きる　山のツキノグマ」
前川 貴行/写真・文（あかね書房）

動物写真家の前川貴行さんが、ツキノグマをおい
つづけた写真絵本です。

今、日本では、野生動物が市街地に姿をあらわ
し、人のくらしをおびやかしています。その代表的
な動物がツキノグマ。人と動物が共存するって、
どういうことだろう？ツキノグマの力強さとおく
びょうさなど、素顔をおいかけながら、問題に向き
あった本。



「魔女がやってきた！」
マーガレット・マーヒー/作　尾崎 愛子/訳
はた こうしろう/絵（徳間書店）

魔女って、どんな存在かな？この本は、
魔女がでてくる短いお話を、5つ集めた
物語集です。ケーキをほしがったり、王さ
まを棚にとじこめちゃったり、男の子に影を
あずけたり…色々な魔女が登場します！
楽しくて、ちょっぴりこわくて、秋の夜に
ぴったりの本。



「心をひらいて、音をかんじて」
耳のきこえない打楽器奏者エヴェリン・グレニー」
シャノン・ストッカー/文　デヴォン・ホルズワース/絵
中野 怜奈/訳（光村教育図書）

エヴェリンは、音楽がとても好きな女の子。ピ
アノやクラリネットを奏することも得意でした。
しかし、8歳の頃耳に痛みを感じ、12歳の頃には
ほとんど耳が聞こえなくなってしまう。お
医者さんにも音楽を続けることはむずかしいと言
われましたが、エヴェリンは音楽をあきらめよう
とはせず、ろう学校ではなく地元の公立中学校に
通いました。そこで打楽器に出会ったエヴェリン
は、自分の信じる道をつきすすんでいきます。



「ぼく、いいたいことが あるの」
ジャン＝フランソワ・セネシャル/文
岡田 千晶/絵　小川 仁央/やく（評論社）

大切なおばあちゃんに、もう会えなくな
ってしまったキツネの男の子。あたたかく
て、たのしくて、ステキな思い出がたくさん
あるのに。おばあちゃんに、伝えたいことは
…「だいすきだよ」。身近にいる大切な人に、
ふだん言えない気持ちを伝えたい絵本。



「こぎつねルーファスのぼうけん」
アリソン・アトリー/作　石井 桃子/訳
（岩波書店）

こぎつねのルーファスは、赤ぎつね。おかあ
さんもおとうさんもなく、ひとりぼっちで森に
すんでいました。ある夕方、ハリエニシダの中
で泣いているところを、アナグマおくさんがみ
つけてくれ、養子になることになりました。

ルーファスはアナグマの兄弟が2匹もでき
て楽しく暮らしていたのですが、さあ大変。ル
ーファスには、わるいきつねのおじさんがいた
のです！

とぎつちよう　つ　とぎつとしょかん
発行：時津町 立時津図書館